

韓国環境部プレスリリース 2020年2月10日付

## 京畿道と江原道の野生いのししから ASF ウイルス検出（野生いのしし 175-177 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1309870&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は江原道（カンウォンド）華川郡（ファチョングン）華川邑（ファチョンウプ）豊山里（プンサンリ）と京畿道（キョンギド）漣川郡（ヨンチョングン）旺澄面（ワンジンミョン）で発見された野生いのしし死体 3 個体で ASF ウイルスが検出されたと 2 月 10 日明らかにした。

華川郡豊山里で発見された死体は環境部捜索チームによって山で発見され、漣川郡の死体 2 個体は全て農業経営者によって山で発見された。

華川郡と漣川郡は野生いのしし ASF 標準行動指針により試料を採取して現場消毒と共に死体を処理した。

国立環境科学院は 2 月 10 日、死体から ASF ウイルスを検出したことを関係機関に通知した。これで華川郡では 55 件、漣川郡では 52 件の野生いのしし ASF 陽性事例となり全国的には 177 件になった。

国立環境科学院生物安全研究チーム長は"今回の死体は全 2 次フェンス内で発見された。この地域では感染した死体がさらに出てくる可能性があり、捜索を強化する"と話した。

以上